

【事例紹介】

留学生のための新潟県企業視察バスツアー事例報告

－地域における留学生就職促進の取り組み－

Company Visits Bus Tour in Niigata for Foreign Students

公益財団法人環日本海経済研究所 経済交流部 経済交流推進員 蔡 聖錫

Cai Shengxi

(Business Support Promotion Officer, Business Support Division,
Economic Research Institute for Northeast Asia (ERINA))

キーワード：留学生就職、キャリア支援、企業見学、地域交流、県内企業

公益財団法人環日本海経済研究所（以下「ERINA」）は2019年12月に3回にわたり、新潟県の下越、中越、上越地方において、外国人留学生による県内企業の工場視察を実施した。当事業は公益財団法人中島記念国際交流財団の2019年度留学生地域交流事業に採択され、財団からの助成を受けて実施された。対象者は新潟県内の大学院・大学・専門学校に在学中の外国人留学生で、これらの留学生による県内企業の視察を通じて、日本企業に対する認識を深めることで、日本とりわけ新潟県での就職に繋がることを目的とした。

本紙では、ERINAが「留学生のための新潟県企業視察バスツアー」を開催した経緯、準備作業、実施状況、実施結果を紹介し、同様のイベントを考えている皆様にとって参考になることを期待する。なお、本紙は筆者が以前書いた「留学生のための新潟県企業視察バスツアー開催報告」（ERINA REPORT（PLUS）No. 152）の内容に留学生と企業間の交流の詳細等について加筆したものである。あらかじめご了承ください。

1. はじめに

ERINAは1993年に設立され、北東アジア地域の経済に関する情報の収集及び提供、調査及び研究などを行うことにより、日本と同地域との経済交流を促進し、北東アジア経済圏の形成と発展に寄与することを目的としている研究機関である。また研究の成果を地域経済の振興に役立てる取り組みも行っており、研究機関の「シンクタンク」と、経済交流の「ドウ」を合わせて、「シンク・アンド・ドウ・

タンク」としている。

毎年 ERINA は新潟県内の大学院・大学・専門学校の留学生と県内企業との就職マッチング相談会「国際人材フェア・にいがた」を開催している。そのきっかけは、2004 年新潟県が実施した県在住外国人生活アンケート調査で、当時回答者の 3 割が「自分の能力や技術を發揮できる仕事がない」あるいは「仕事の探し方が分からない」と回答した。また、企業のグローバル化が進み、海外ビジネスにおける人材のニーズが増えていたことによる。このような状況の下、企業・外国人材相互のマッチングでウィンウィンになることを期待して、2005 年に初の国際人材フェアを開催した¹。それから 15 年間で 16 回開催し、延べ 1183 人の留学生が参加し、82 人の内定者を出してきた。

しかし、国際人材フェアで成果を出している一方、課題もある。

まず多くの留学生にとっては普段日本企業と接する機会がほとんどないため、彼等が日本企業への就職を考えた場合に、「新潟にはどのような企業があるのか」、「日本での仕事の内容がわからない」、「日本での就活の流れがわからない」などの問題を抱えている。また、日本で就職する際に、新潟ではなく、東京、大阪等大都市圏で就職したいという意識が強い²。こうした状況を踏まえ、留学生が新潟県の産業特性や県内企業の特徴ある技術や生産活動、サービス内容を知ることにより、仕事の内容を理解し、就職の流れを学び、就職の選択の幅を広げるため、留学生による県内企業視察ツアーを企画した。また、企業に対して直接交流する機会を提供することで、外国人留学生との接触を通じて、採用を検討するきっかけになることが期待された。

2. 準備作業

①視察受入可能な企業の選定（9月～10月）

2019年6月8日(土)に開催された「国際人材フェア・にいがた2020」で、参加企業に対して、視察受入可能か否か、受入の時期、受入人数、留学生との意見交換を希望するか否かの4つの質問についてアンケート調査を行った。そして、アンケート結果に基づき、企業のなかから、金属加工、食品加工など新潟県が得意としている製造業の分野で、一回につき40人程度(大型バス一台分)受入可能な企業を選定した。選定に際しては、広い県土を上・中・下越に分けて実施することとし、地域の中核市である長岡市や上越市からも協力を得て、留学生の採用に関心がある企業を紹介してもらった。

②日程調整、移動ルートを選定（11月）

まず、日程と移動ルートの選定を行った。

上・中・下越においては、一回につき一つの方面を、午前と午後に1社ずつ訪問するようにした。一部の企業は、人員(説明役)の調整、生産スケジュール等の関係で受入可能な日が限られたため、

¹ 「国際人材フェア・にいがた報告」ERINA BUSINESS NEWS Vol. 52, 2005年11月

² 「国際人材フェア・にいがた2019開催報告」ERINA REPORT (PLUS) No. 143, 2018年8月

日程調整が困難な企業を優先して、ほかの企業がそれに合わせるようにした。幸い、一つの方面において2社が同時に調整困難な場面が現れなかったため、順調に日程を決めることができた。

次に、ルートの選定を行った。留学生の集合場所、企業の位置、食事の場所等の要因を考慮しながら、効率よく回るルートを選定した。特に食事については40人が入れる場所が必要であったため、委託先の交通会社に相談しながら決めた。

③留学生の募集（11月）

選定企業との日程調整を基に留学生向けチラシを作成し、県内の大学院・大学・専門学校の留学生担当窓口、または就職担当窓口を通じて留学生の募集を行った。

【公開】新潟県国際交流財団制作（特）日本学生支援機構新潟県中越地区協議会

留学生のための新潟県企業視察バスツアー

新潟県の産業を知ろう！

参加無料 (昼食付)
予約申込は下記まで
お問い合わせください
締切は下記までとなります

日時	12月6日(金) 08:30~17:30
集合	新潟駅北口 赤十字ビル前(08:30集合)
出発	新潟駅北口 赤十字ビル前(08:30集合)
到着	新潟駅北口 赤十字ビル前(17:30集合)
参加費	新潟県内各企業 新潟県内各企業
対象	新潟県内の大学・大学院・専門学校に在籍する外国人留学生、日本語が可能な方、または日本語の修得が2級以上の方。
申込	新潟県を代表する各企業代表(1名)を要します。

氏名 (Family Name) (姓)	氏名 (Native Name) (名)	性別 (Sex)	国籍 (Nationality)
メールアドレス (E-Mail)	新潟県を代表する各企業代表 (代表者)	新潟県を代表する各企業代表 (代表者)	新潟県を代表する各企業代表 (代表者)

下越方面のチラシ

【公開】新潟県国際交流財団制作（特）日本学生支援機構新潟県中越地区協議会

留学生のための新潟県企業視察バスツアー

新潟県の産業を知ろう！

参加無料 (昼食付)
予約申込は下記まで
お問い合わせください
締切は下記までとなります

日時	12月19日(金) 08:30~18:00
集合	新潟駅北口 赤十字ビル前(08:30集合)
出発	新潟駅北口 赤十字ビル前(08:30集合)
到着	新潟駅北口 赤十字ビル前(18:00集合)
参加費	新潟県内各企業 新潟県内各企業
対象	新潟県内の大学・大学院・専門学校に在籍する外国人留学生、日本語が可能な方、または日本語の修得が2級以上の方。
申込	新潟県を代表する各企業代表(1名)を要します。

氏名 (Family Name)	氏名 (Native Name)	性別 (Sex)	国籍 (Nationality)
メールアドレス (E-Mail)	新潟県を代表する各企業代表 (代表者)	新潟県を代表する各企業代表 (代表者)	新潟県を代表する各企業代表 (代表者)

中越方面のチラシ

【公開】新潟県国際交流財団制作（特）日本学生支援機構新潟県上越地区協議会

留学生のための新潟県企業視察バスツアー

新潟県の産業を知ろう！

参加無料 (昼食付)
予約申込は下記まで
お問い合わせください
締切は下記までとなります

日時	12月11日(金) 08:30~18:00
集合	新潟駅北口 赤十字ビル前(08:30集合)
出発	新潟駅北口 赤十字ビル前(08:30集合)
到着	新潟駅北口 赤十字ビル前(18:00集合)
参加費	新潟県内各企業 新潟県内各企業
対象	新潟県内の大学・大学院・専門学校に在籍する外国人留学生、日本語が可能な方、または日本語の修得が2級以上の方。
申込	新潟県を代表する各企業代表(1名)を要します。

氏名 (Family Name)	氏名 (Native Name)	性別 (Sex)	国籍 (Nationality)
メールアドレス (E-Mail)	新潟県を代表する各企業代表 (代表者)	新潟県を代表する各企業代表 (代表者)	新潟県を代表する各企業代表 (代表者)

上越方面のチラシ

3. 実施概要

工場視察の概要は以下の通りである。

①下越地域

- ・実施日：2019年12月6日(金)
- ・視察企業：一正蒲鉾株式会社(本社工場・新潟市、カマボコなど練製品製造)、佐藤食品工業株式会社(聖籠工場及び東港工場・聖籠町、パックご飯などの製造)
- ・参加人数：16名
- ・大学：新潟大学(14名)、事業創造大学院大学(2名)
- ・参加者の国籍：中国(9名)、台湾(1名)、韓国(1名)、ベトナム(1名)、ミャンマー(1名)、スリランカ(1名)、バングラデシュ(1名)、インドネシア(1名)
- ・当日のルート：(朝)新潟駅出発→(午前)一正蒲鉾株式会社視察→(午後)佐藤食品工業株式会社視察→(夕方)新潟駅到着、解散

・ 交流詳細 :

【一正蒲鉾株式会社】（訪問時間：午前10時から12時まで、約2時間）

一正蒲鉾株式会社は水産練り製品メーカーで主力製品は蒲鉾、カニカマなどがある。今回訪問したのは本社工場で、まず企業側から、会社概要、製品の紹介、求める人材等について説明が行われた。その後、留学生は2つのグループに分かれて工場見学を行った。工場では蒲鉾、カニカマ等の製品が原材料（魚のすり身）から製品になるまでの過程を一通り見学した。続いての試食会では実際に工場で作られた製品をその場で試食した。留学生たちにとってはこういう体験は初めてということで、興味津々であった。



工場視察



試食会

その後の交流会では留学生から企業に対して企業の海外進出、外国人採用の有無、外国人材に求めるものなどについて質問があり、企業がそれに対して丁寧に回答した。また、企業からは試食した製品を留学生の母国で販売する場合は消費者に受け入れられるかなどの質問があり、留学生からはさまざまなアイデアが出てきた。なかには企業側の担当者が「大変参考になった」と評価したアイデアもあり、有意義な交流ができたのではないかと感じた。



交流会



集合写真

【佐藤食品工業株式会社】（訪問時間：午後2時から4時まで、約2時間）

佐藤食品株式会社はパックご飯や、切り餅などを生産する業界内でトップシェアを誇る会社である。今回訪れたのは2019年7月にオープンしたばかりの「聖籠工場」であった。「聖籠工場」には異物除去装置や箱詰めロボット等の自動化装置が導入されており、更に、工場設計の段階から見学者専用の特別通路を設けることにより、消費者への安心と信頼を提供しようとするなど、さまざまな最新の技術や理念が詰まっている最新工場である。留学生たちは全自動化された生産ラインを見て、ほんの数人の従業員で一日20万食のパックご飯を作るのを聞いて驚いていた。世界最先端の工場が身近にあるとは思いもしなかっただろう。



工場説明



工場見学

工場見学が終わった後、同社の「東港工場」へ移動して、企業紹介、試食会、意見交換などが行われた。説明のなかで、「当社はパックご飯を作る際に、米、水、釜、炊き方等のすべての工程においてこだわりを持ち、美味しいものを作る」という言葉に留学生が頷いていた。日本企業の品質へのこだわりを実感した様子であった。



企業説明



試食会

②中越地域

- ・実施日：2019年12月10日(火)
- ・視察企業：マコー株式会社（本社・長岡市、防振ゴム表面処理装置などの製造）、日東工業株式会社（六日町工場・南魚沼市、テーピング機などの製造）
- ・参加人数：8名
- ・大学：新潟大学（7名）、長岡公務員・情報ビジネス専門学校（1名）
- ・参加者の国籍：中国（7名）、韓国（1名）
- ・当日のルート：（朝）新潟駅出発→（午前）長岡駅経由→（午前）マコー株式会社視察→（午後）日東工業株式会社視察→（夕方）長岡駅経由、解散→（夕方）新潟駅到着、解散
- ・交流詳細：

【マコー株式会社】（訪問時間：午前10時から12時まで、約2時間）

マコー株式会社は防振ゴムの表面処理装置の生産高が日本一の企業で、同社の「ウェットブラスト」加工装置は、業界内でトップシェアを誇っている。まずは企業側から会社概要、主力製品、求めている人材像などについて説明が行われた。次に実際に機械を動かしながら表面加工を行う「ウェットブラスト」体験を行った。当体験を通じて筆者を含む全員が「ウェットブラスト」に対して認識を深めることができた。その後、製品の組み立て生産ラインや、オフィス、社員食堂、展示室等に案内され、快適な職場環境に留学生が目を見張っていた。また企業からは既に外国人を採用していることや、海外との取引が多いので留学生も十分活躍できることなどが紹介され、更に興味が増したのではないだろうかと感じた。見学の後、早速入社を希望する留学生がいたほどである。



会社説明



「ウェットブラスト」体験

【日東工業株式会社】（訪問時間：午後2時から4時まで、約2時間）

日東工業株式会社は「テーピング機」を開発・設計・製造・販売する機械メーカーで、製品は世界最高速を誇っている。見学は企業紹介から、工場見学、質疑応答の順で行われた。説明によれば、同

社には外国人従業員が数人働いており、一番簡単な機械組み立てから一番難しい機械調整まで様々な段階で活躍しているという。見学の際に、ちょうど外国人社員が納品直前の機械を調整していたので、特別に仕事の内容について紹介してもらった。社員に対する福利厚生も充実している。工場のすぐ近くには外国人社員のための専用の社員寮があり、また、工場内にはトレーニングルーム、娯楽室、更にはテニスコートまで完備されており、社員は全部無料で使用できるという。それを聞いた留学生は「いいね」と囁いていた。



会社説明



テニスコートで集合写真

③上越地域

- ・実施日：2019年12月18日(水)
- ・視察企業：シゲル工業株式会社（本社・上越市、ステンレス製流し台などの製造）、株式会社サイカワ（本社・柏崎市、伸線機などの製造）
- ・参加人数：18名
- ・大学：新潟大学（14名）、新潟産業大学（4名）
- ・参加者の国籍：中国（16名）、モンゴル（1名）、タイ（1名）
- ・当日のルート：（朝）新潟大学出発→（午前）新潟産業大学経由→（午前）シゲル工業株式会社視察→（午後）株式会社サイカワ視察→（午後）新潟産業大学経由、解散→（夕方）新潟大学到着、解散
- ・交流詳細：

【シゲル工業株式会社】（訪問時間：午前10時から12時まで、約2時間）

シゲル工業株式会社はステンレス流し台の生産において、国内でトップシェアを誇る企業である。見学はまず同社の社長の挨拶から始まった。その後、会社概要、製品、求める人材、海外戦略などについての説明を受け、工場見学を行った。そこでは、安全面での配慮から留学生は5つのグループ（1グループ約4人）に分かれ、それぞれ同社の社員の指示に従いながら見学をした。留学生たちは原材料から製品になるまで、金属プレス加工、切断、折り曲げ等の様々な工程を見て、「流し台は簡単だと

思っていたが、高度な技術が必要ですね」と口を揃えていた。日本の高度な金属加工技術を実感したのであろう。最後に、質疑応答では同社の海外進出について意見交換が行われ、留学生・企業の両方が満足した様子であった。

ちなみに、留学生と企業間の交流の様子を見る為、上越市役所から担当者3人が同行した。このような取り組みが行政の産業振興策にも参考となることを期待したい。



企業紹介



質疑応答

【株式会社サイカワ】（訪問時間：午後2時から4時まで、約2時間）

株式会社サイカワは国内唯一の総合電線製造機械メーカーで、極細線用伸線機では世界トップシェアを誇っている。まず同社の社長からの挨拶で始まり、企業紹介、柏崎市および企業の歴史、企業の海外戦略などについて紹介があった。社長のユーモアあふれる発言に留学生の関心が強く引き付けられていた。次の工場見学は3つのグループに分かれて同社の社員の案内のもとで行われた。当日ちょうど海外の企業に収める予定の製品を検収するため、海外からの顧客が工場内にいたので、それを間近に見ることが出来、留学生にとって良い経験になったと思う。「こちらの機械では電線を人間の髪の毛より細く伸ばします」との説明を聞いて皆が驚いていた。留学生にとって充実した見学になったのではないと思う。次の質疑応答では、留学生から外国人社員の採用に関して質問があり、社長より求めている人材像などについて丁寧に説明がなされた。最後に会社の前で集合写真を撮り、見学が終了した。



企業紹介



集合写真

4. 実施の成果

留学生に対するアンケート結果によれば、「本日の工場見学は如何でしたか？」という質問に対して、参加者全員が「満足」と答え、概ね好評であった。

「今まで日本企業の工場見学に参加したことがあるか？」という質問に対して、33名（76%）は「ない」と答え、「新潟にこのような企業（工場）があることを知っていたか？」という質問に対して、28名（66%）は「いいえ」と答えた。かねてから留学生が日本企業との接点が少ないため、企業に対する理解が足りないのではと推測していたが、今回の視察ツアーおよびアンケートによりそれがある程度明らかになった。

「今回の視察を通じて日本企業に対する理解が深まったか？」という質問に対して、37名（91%）は「はい」と答え、更に、「新潟の企業に対してもっと知りたいと思うか？」という質問に対して、41名（98%）が「はい」と答えるなど、肯定的な意見が多かった。

感想については、「今回の視察バスツアーはとても楽しかった。このようなイベントがもっとあってほしい」、「勉強になった」、「日本企業を知る良い機会であった」などの好評がある一方で、「製造業の他にも商社、流通、サービス業なども見学したい」、「文系の学生に合う職場を見学したい」などの要望も寄せられた。

企業に対するアンケート結果によれば、「工場見学が有意義と思うか？」という質問に対して、6社（100%）が「有意義であった」と答えた。その理由として、「外国人留学生のレベルの高さがわかった」、「異国の若い人材との交流は有意義で、発言も積極的で楽しかった」、「当社を知ってもらい、そして知人に伝えて交流の輪が広がることに意義がある」などがあげられている。

また、「次回も工場見学の受け入れを希望するか？」という質問に対して、6社（100%）が「希望する」と答え、当事業は企業にとってもニーズがあると感じた。

改善点について、企業からは「留学生と受け入れ企業間の思惑がうまくマッチングしないと単な

る会社見学で終わってしまうので、お互いの希望が叶うような見学ツアーにしてほしい」という意見があった。

5. 今後の展望

今回の企業視察バスツアーでは留学生・企業双方全てが満足する結果となり、当事業に対してニーズがあることが分かったので、今後も継続的に実施する予定である。また、参加した留学生全員の日本企業に対する関心が高まってきており、今後の就職活動において自ら積極的に行動することが期待される。

しかしながら、一方で課題もある。一つ目としては、前述の企業向けアンケートにあった双方の思惑が一致しない問題だ。今回視察した企業は全部製造業で、その多くはエンジニアや機械設計などを担当する理系の人材を求めていることに対し、参加した留学生の全員は文系の学生で、ミスマッチが起きた。例えば、業務内容を紹介する際に技術系の専門用語が多くなると、文系の学生にとっては理解が困難になる。留学生の専門と、それに合う業種（もしくは職種）の企業と交流できるように企画することが必要である。

二つ目は、開催時期と留学生の集まりの問題である。今回は県内の大学院・大学・専門学校の担当窓口を通じて参加者の募集を行ったが、参加者が在籍する学校に偏りが見られた。参加者が少ない、あるいはなかった学校に理由を尋ねると、平日に開催する場合、授業と重なれば、授業を優先せざるを得ないとの回答であった。しかしながら、学校の休みを狙って休日開催にすると、今度は受入可能な企業を探すのが困難になる。その改善策としては、事前に学校側と調整して、授業の一環として参加を促す、学校の夏休み時期に開催する、もしくは、企業側に休日にも受け入れるように働きかけるなどの方法が考えられるが、いずれにしても解決に工夫が必要な課題である。

今回の事業を通じて、貴重な経験を得ることができた。改善に向けて課題は多いが、継続して実施することでノウハウを積み重ね、留学生と企業の双方にとって有意義な事業となるように取り組みたい。